

持妙尼御前御返事

建治二年一月二日 五五歳

御^僧そうぜんれう^膳送り^料給^{おわ}び候^こひ了^んぬ。すでに故入道殿のかくるゝ日にておはしけるか。
とかうまぎれ候^兎ひけるほどに、うちわす^打れて候^忘ひけるなり。よもそれにはわす^忘れ給^ははじ。
蘇^そ武^ぶと申^せしつ^つわ^わものは、漢王の御使^こひに胡国と申^こす国に入りて十九年、めもおとこ
をはなれ、おとこもわするゝ事なし。あまりのこひしさに、おとこの衣を秋ごとにきぬ
たのう^上へにてう^打ちけるが、おもひやとをりてゆきにけん、おとこのみ^耳ゝにきこへけり。
ちん^陳しとい^子ゝしものは、めおとこはなれけるに、か^婦ゞ^夫みをわりてひとつづつ^離とり^鏡にけり。
わするゝ時はとりとび^鳥さりけり。さう^飛しとい^去るしものは、おとこをこひてはかにいたり
て木となりぬ。相思^そ樹^しと申^じすはこの木なり。大唐へわたるにしがの明神と申^志す神をはす。
おとこのも^唐ろこしへゆきしをこひて神となれり。しまのすがたをう^鳥な^女ににたり。まつ
ら^浦さよ^佐ひ^与めとい^姫ふ是なり。いにしへよりいまにいたるまで、をやこのわかれ、主従のわ
かれ、いづれか^辛つらからざる。されどもおとこを^夫んな^女のわかれほどた^尊とげなかりけるは
なし。過去遠々より女の身となりしが、このおとこ娑婆最後のぜん^善ち^知し^識きなりけり。
ち^散り^花しはなをち^咲しこのみはさきむすぶ いか^故にこ人のかへらざるらむ
こ^去ぞも^年う^憂くことしもつらき月日かな おもひはいつも^晴はれぬものゆへ
法華經の題目となへまいらせて、まいらせ候へ。

十一月二日

日 蓮 花 押

持 妙 尼 御 前 御 返 事